

安心して居られる スペースの持つ、 実は大きな意味

加藤 佐紀子

(名古屋 YWCA 「ナゴ女*つながーる」 スタッフ)

夕方5時が近づくと、それまでのがらんとしたロビーと会議室に魔法がかかり、カラフルクッションや小さなおもてなしグッズなどで、瞬間に温かくてキラキラとした居場所に変身します。会社帰りによってくださるのか、もうすでに開場を待っていてくださる方が数人。コロナのための受付を済ませると、手書きのウェルカムカードを受け取り、温かい飲み物やお菓子でひと心地つきながら、ゆるゆるとした時間が始まります。参加者同士の編み物チーム、ちょっと気になるテーマのおはなし会、さまざまなクラフトタイムや“つながーる de ピアノ”など、日常の何気ない暮らしの楽しみがそこにあります。終わりがけの時間になって、帰る前にホッと一息つこう、と寄ってくださる方も。

今年度、名古屋 YWCA では、コロナ禍の女性を支援するための「女性のためのつながりサポート事業」を名古屋市から受託、それが「ナゴ女*つながーる」です。週2回開催し、毎回20～30人、終盤には50人もの方が訪れてくださり、大勢の女性たちで座るイスもないほどに。最終回まで新規の利用者もありました。80回に及んだ対面での居場所の利用者は、のべ2,000人を越えました。30代40代が中心で、働いている人が多く、家族と暮らす方も、ひとり暮らしの人もいます。

「〇〇しなければならない」ことはひとつもなく、開放された、ゆるやかに人とつながれる場なので、初めての人には心もとなく感じるかもしれません。

ジェンダーの視点から解きほぐす対人関係スキルや母娘関係などを扱った「みらいレッスン」は、オンラインレッスンともいずれも盛況でした。女性たちは、職場で、家

庭で、社会で、自分を守るために必死で戦っている。”わたし”が自由に生きるために、自分の守り方を身につけたいと思っておられるのでしょうか。

ひとりで暮らす、あるいは家族の中で肩身の狭い思いをして居場所のない女性にとって、ここにいていいよと言ってくれる場、誰かと一緒に居られる意味は大きいのではないのでしょうか。誰からも攻撃されない、安心してそこに居ることが保障されている空間は、他にはないスペシャルな場所。「貴重なんです、必要なんです、ぜひこの場を存続させて」と参加者から言っていました。

一見、特に生活が破綻しているわけではない人も、言葉を交わすと、過去に、今に、何らかの生きづらさや困難を抱えていらっしゃるのことがわかります。福祉の支援を受けるところまでは至っていないし、何とか暮らしているけど、孤独にさいなまれ、誰かの支えを必要としている人たちがここにいる。誰もが心地よく集える場所だからこそ、ここに来て思いを明かして下さったのでしょうか。

昨年、65年ぶりに売春防止法が改定され、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が成立し、女性の人権と福祉をまもるための”居場所”の意義が書き込まれました。大きな困難に陥る前に、一人ひとりの女性が生きる力を蓄え、それでも必要な時には支援を求められる場所が用意されていることが肝心なのです。女性の人権を守る社会の、政治の役割は大きいのです。



2023年度 運営委員会スタート

2023年度は金本美子さん、福田百さんが退任され、新たに住田サーラさんを迎えました。運営委員は4月から5人でスタートしました。

定期会員集会后に新旧運営委員会を開催。役員、定例ミーティングの日程、ミーティングの司会と議事録記録担当者を決定後、運営委員の負担になっていることや改善点について、新旧の運営委員で意見交換をしました。

会則では、運営委員の定員は6人からとなっているため、6人目の運営委員のためにも、運営委員会自体

の変化を問われています。まずは3時間の定例ミーティングを2時間半にすること、書記の役割であったミーティングの記録を当番制にすることの2つを決定し、負担を分散することで軽減につなげます。

今年度は「つながりの意味を深め、共に動こう」を目標に、いきいきと活動できる会員活動であることを目指し、会費制度の見直しについても取り組みます。

6月にキックオフミーティング、11月にはオープンミーティングを開催予定です。(木村 文子)

神戸YWCA ビジョン

一人ひとりが大切にされる社会

神戸YWCA ミッション

多種多様な「つながりづくり」によって、個と集団をエンパワーする

2023年度活動目標

つながりの意味を深め、共に動こう

2023年度標語聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

(ローマの信徒への手紙 12章 15節)

第103回神戸YWCA 定期会員集会

3月11日(土)、東日本大震災から12年目のこの日、神戸YWCA会館とオンラインで、第103回神戸YWCA 定期会員集会が開催された。

開会礼拝では、谷合公江さんが「震災からの出会い」をテーマに話された。

2022年度の活動報告、2023年度の活動計画案・予算が承認された中、この2年新組織で歩んできたが、今一度、組織図の変更、特にグループ活動の規程についても承認された。また、理事会から、



HAT 神戸灘の浜プロジェクトの新事業が新年度から立ち上がるということが報告されたが、会員活動をどのように生かせるか、皆で考えていけたらと思った。参加者は会場22人、オンライン4人。

(鶴崎 祥子)

2023年度 神戸YWCA 運営委員

岩切幸子、木村文子、斎藤明子、住田サーラ、宮田泰子

会長 木村文子
副会長 斎藤明子、宮田泰子
書記 住田サーラ
会計 岩切幸子

2023年度 委員会担当運営委員

世界・社会委員会	斎藤・住田
環境・くらし委員会	岩切
ユース・エンパワメント委員会	木村
キリスト教基盤委員会	宮田
機関紙編集委員会	岩切
定期会員集会実行委員会	住田
ファンドレイジング実行委員会	宮田
<他センターとの連携> *陪席参加	
多文化共生センター委員会	斎藤
総合サポートセンター委員会	宮田

まごの手ヘルパー徒然記

春の訪れとともに、若い人の新生活に関わる依頼が2件続けて舞い込んだ。いずれも同行援護という、目に障害がある方の外出を支援する仕事だ。

1つ目は、この春盲学校中等部に進学する中学生への支援だ。彼女は、部活動に参加したいと思っている。しかし、帰りのスクールバスは部活動をしないう生徒の下校時刻に合わせて出発するため、部活動をする場合は、終了後、電車などを利用して帰らない



といけない。母親は、自分も目が見えないため付き添いができない。そこで、部活動がある日の下校をサポートしてほしいと依頼があった。

2つ目は、就職活動をする大学4年生への支援だ。彼は、大学など慣れている場所への移動は一人でできるが、初めて行く場所への移動は難しい。これまで母親が付き添って

たが、昨年秋に脳梗塞で倒れ、支援しづらくなった。そこで、就職活動で出かける場所への移動をサポートしてほしいと依頼があった。

どちらも、若い人の未来を支える仕事であり、この春すぐにサポートしないといけない仕事だ。しかし、訪問ヘルパーは他の仕事も抱えており、人手は不足している。同行援護は、ヘルパー資格なしでも4日程度の講習でとれる資格である。ぜひ、一人でも多くの方の資格取得を呼びかけたい。

(まごの手職員・藤井 かえ子)

日本は外国人とどう生きているの？ 技能実習制度を知っていますか



齊藤善久さん

大きな社会問題になっている技能実習制度を多くの人に知らせようと、世界・社会委員会では、3月21日（火・祝）、オンライン講座を開いた。講師は長年この問題にかかわって来られた、神戸大学大学院国際協力研究科准教授の齊藤善久さん。事例やルポによるお話を聞いて、技能実習制度の問題点をリアルに受けとめることができた。

最後に、提言として①日本語能力を要件とする②転籍を認める③外国人支援専門の公的機関の設立

④家族の帯同、などの整備をあげられた。しかし、これらが整備されたとしても、現在技能実習生が担っている低賃金で単純労働や3K労働を彼らが担うだろうか、と。

外国人非熟練者労働政策・制度は日本の労働政策、労働市場全体の問題でもある、との指摘は、私たちが外国人とどう生きていくのかという姿勢につながっているのだと考えさせられた。

参加者 47 人（録画視聴者含む）。
（野村 春美）

ジェンダーグループ 『AFTER ME TOO』 映画上映



世界で始まった「#MeToo」のうねりが深まり、韓国では「一人で戦わないために、みんなの問題にするために」と声を上げ始めた人々のドキュメンタリー映画が作られた。日本では福島で自主上映され、神戸YWCAでも7月初めの1週間、元町映画館との共催で上映することになった。上映後には感想シェア会を行い、集まった人々との意見交換を予定している。

300人の参加を目標に、ジェンダーグループだけではなく、神戸YWCA全体のイベントにしていきたい。女性団体である私たちが社会に向けて発信する機会にぜひご協力を！

（齋藤 明子）

平和憲法を形骸化「安保関連3文書」ってなに？

軍備拡大・防衛費倍増など、国が大きな転換点に立つ今、「安保関連3文書」を学ぼうと1月29日（日）、神戸学生青年センターでおしゃべり会をもちました（平和活動グループ・ピース・ブリッジ共催）。

「3文書」には、侵攻抑止のため敵基地攻撃能力を保有、10年後までにトマホークなど長距離ミサイルを十分に確保、防衛予算をGDPの2%に

する、などが書かれています。専守防衛は維持すると言いつつ、集団的自衛権が行使されると先制攻撃もありえます。

参加者は戦争を絶対に避けたいという思いを交換し、ASEANをはじめ平和な地域づくりを実現している世界の流れを知って、励まされました。参加者は13人でした。

（川辺 比呂子）

世界祈禱日

3月3日（金）、日本キリスト教団神戸聖愛教会にて「世界祈禱日2023」が開催された。今回は4年ぶりの対面礼拝となり、出席者は112人（神戸YWCAより6人）であった。

9つのキリスト教の教派や団体とともに、今年は日本とも関係の深い



台湾のために、ドラマ形式で心を合わせて平和を祈り、賛美を捧げた。

（澤村 典子）



元町映画館のホームページ
<https://www.motoei.com/>



最近「どんな社会をどんなアプローチでつくっていくのか」という問いに、改めて揺らぎを感じています。

私は2023年4月よりJICA青年海外協力隊員として、エルサルバドルで2年間活動することになりました。現地のNGOに配属され、中小企業や農家、環境保護団体、女性団体と一緒に活動計画の立案・実施・評価を行います。

そして、この1〜3月に長野県駒ヶ根市にて、同期の隊員42人とともに事前研修を受けてきました。同期の仲間たちの問題意識に触れる中で、「障害ってなに？誰が障害者？」「誰もが合意できる未来って？」「意味あるつながりってどんなもの？」のような問いに答えられない自分に気付かされました。

とはいえ、神戸YWCAでの活動の中で、ユーモアあふれる出会いの場づくりの価値を学びました。この学びを胸に、エルサルバドルでの活動期間も、目の前のことに丁寧に取り組みながら、じっくり問いと向き合いたいと思います。
（福田 百）

神戸YWCAへの おさそい

*予定は変更されることがありますので、ホームページ等で最新情報をご確認ください。

●わいわいデイルーム 会館

(神戸市地域拠点型一般介護予防事業)
毎週火曜日、10時～15時
お近くの「あんすこ」でお申し込みください。

●カフェもぐもぐ その他

若年性認知症の人と仲間たちのつどい
5月6日(土)、6月3日(土)
10時30分～15時
場所 日本基督教団神戸聖愛教会
参加費 800円(食事付)
要予約、詳細はお問い合わせください。

●木曜カフェ 会館

第2・4木曜日、13時30分～15時30分
レコードで懐かしい音楽を聴きながら

ほっこりしませんか？(1ドリンク100円～)

●平和活動グループおしゃべり会 その他

「武力ではなく、対話による平和構築～
アジアの平和を考えよう～ASEAN(東南アジア
諸国連合)とは？」
5月21日(日)14時～16時
場所 神戸学生青年センターウエスト100
1階サロン室(灘区八幡町4-9-22)
お話 田中清史さん(神戸演劇鑑賞会)
参加費 500円

●市営HAT神戸・灘の浜南集会所第1回バザー その他

5月28日(日)12時～15時
場所 灘区摩耶海岸通2-3 8号棟1階集会所
*詳しくは事務局までお問い合わせください。

冬季クリスマス募金

2022年11月19日～
2023年2月20日の募金総額
1,533,000円

感謝とともにご報告いたします。

■理事会報告

2月11日(土)第9回理事会。
出席理事7人、監事2人。神戸YWCA保育園の保育スペース拡張、神戸YWCA2022年度事業報告、2023年度事業計画および2023年度予算案を承認。

HAT神戸・灘の浜南集会所を活用したコミュニティ活性化事業がスタート。4月22日(土)にオープニングセレモニーを開催予定。
(総幹事・西本玲子)

■新会員

住田 サーラ 橋本 亜矢
(敬称略)

■賛助員

平木 貴美子 (敬称略)

■訃報

中村昭子さんが3月11日に逝去されました。会計担当の職員として働かれ、近年は賛助員としてもお支えくださいました。

■編集後記

新年度がスタート。機関紙編集委員会も新たな機関紙のあり方を模索する1年になります。
(H・N)

■学院だより

「日本語ボランティア養成講座(入門編)」(5月27日～6月24日、毎週土曜10:00～12:30)の受講生を募集しています。外国にルーツを持つ児童生徒の増加に伴い、公立小学校での日本語指導支援など、日本語ボランティアがますます必要とされています。日本語教育の世界をのぞいてみませんか。

(学院長・西本 玲子)

■保育園だより

にぎやかに言葉のやり取りをしていた2歳児が卒園し、4月は言葉ではなく、新入園児の泣き声が響く毎日です。

昨日から今日になったことなのに、より落ち着いてやりたい遊びを楽しんでいる新2歳児。赤ちゃんとはばかり思っていたら、急に意思がはっきりと行動に出てきた新1歳児。子どもたちは一つ大きなクラスになったことを感じているのでしょう。

0歳、1歳の新しいお友だちを迎えて和やかな雰囲気の中、新しいかわりがあちこちで始まっています。

(梅川 玲子)

■まごの手だより

「居宅介護支援」は、現在、58件(うち予防13件)のケアマネジメントを実施。入院されていた方が自宅に戻れず入院が長期化していたり、亡くなられた方がいる一方、要支援の方が介護にいられたり体調の変化が大きい。

「訪問介護」は利用者数のべ164人。利用者の重度化対応に追われている、慢性的なヘルパー不足が課題である。

「生活支援わいわい」のメンバー登録数は24人。12/1～1/15は8件の利用があった。

「居住支援」は、1/16～3/15、新たに2人から入居前相談を受けた。3/16現在、入居前支援継続4人。入居中支援継続2人。入居実績は1件。
(所長・寺内 真子)

■運営委員会報告

2月10日、第13回運営委員会(ハイブリッド)、出席6人。【報告】●日本YWCA●理事会●指名委員会●会員活動【議事】●第102回(前回)定期会員集会議事録承認●運営委員会および会員活動の2022年度活動報告と2023年度活動計画案●2022年度

会計報告と2023年度活動予算案●5つの課題への取り組みと提案●定期会員集会の議案資料、タイムスケジュール、役割分担と発表内容の共有。

3月11日、新旧運営委員会(対面)、出席7人。【報告】●加盟YWCA中央委員会●HAT神戸・灘の浜プロジェクト【議事】●2023年度運営委員会活動計画の確認●運営委員会の課題共有と2023年度の取り組み方針●2023年度運営委員会役員決定●各委員会・プロジェクト担当決定●運営委員会日程と担当決定●各委員会メンバー公募チラシ作成と発送。
(岩切 幸子)

ヨガとフラでイースター

～笑いで復活 輝くいのちを喜ぶ～

イースターって、復活って、なぁ～に。歌あり、笑いヨガあり、フラダンスあり。心も体もほぐれるひと時を過ごし、イースターをお祝いしましょう。

日時：4月15日(土)13:30～14:30

参加費：無料(定員15人)

場所：神戸YWCA会館

4/12(水)までにキリスト教基盤委員会へお申し込みください。



ホームヘルパー募集

誰もが地域の中で自分らしい暮らしをおくるために、担い手となって働きませんか。

◆ホームヘルパー

常勤 月給198,100円～
パート 時給1,100～1,200円
登録型 時給1,000～1,400円

*担当・寺内までお問い合わせください。

◆生活支援訪問
サービス従業者 900円/回

神戸YWCA
まごの手

☎078-231-3156



シャマイム

担当者 佐野 睦 (日本基督教団 甲東教会会員)



よい てん ご く
0120-41-1059 (24時間受付)

宗教を問わずあらゆるお葬儀をプロデュースさせていただきます

西宮市段上町2丁目13-2

URL: <http://sanosousai.com>